

第3章

調査結果の活用

学校における分析等が効果的かつ円滑に行えるよう、分析方法の例を作成しました。

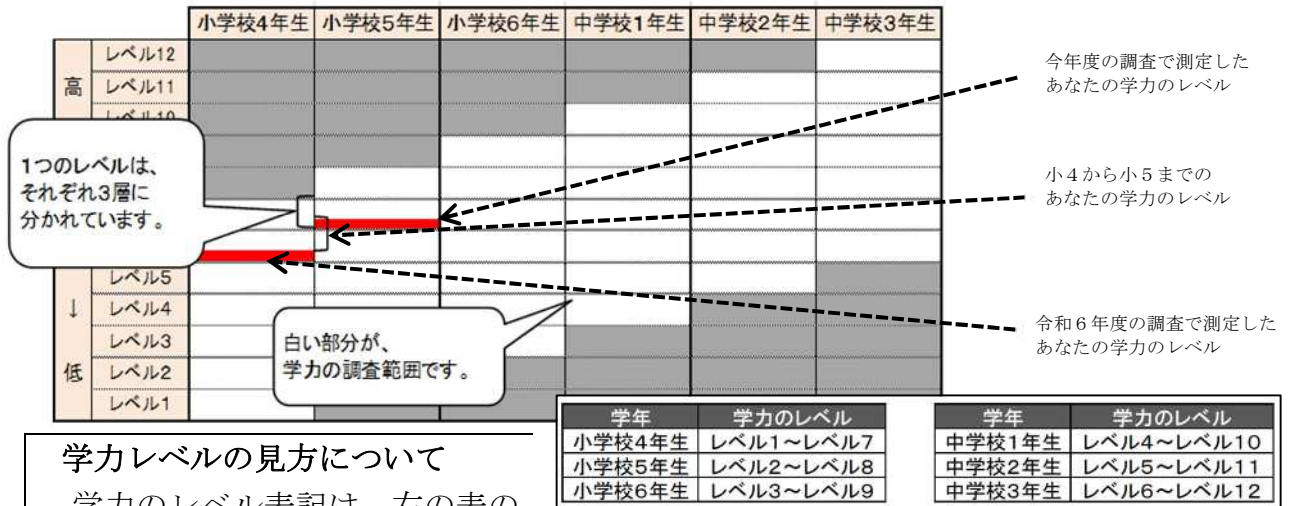
- ① 各学校の実態を把握する
- ② 分析を行う
- ③ 仮説を設定する
- ④ 検証を行う

調査結果から、各学校の実態を把握し、分析を行うことで課題等を踏まえた仮説を設定し、その仮説に基づく取組によって検証を行うといったP D C Aサイクルの確立につなげてください。

1 個人結果票、結果帳票の活用

(1) 個人結果票（教科に関する調査結果）の見方

例：小学校5年生の教科に関する調査結果の見方



学力レベルの見方について

学力のレベル表記は、右の表のとおり12段階となっております。

例示している小学校5年生ではレベル2からレベル8までの間で、学力のレベルが赤いバーの位置で表されています。

教科の領域等別正答率など

	あなたの正答数	問題数	あなたの正答率(%)	埼玉県平均正答率(%)	あなたのかけた時間	県平均かけた時間
ア	14	17	82.4	68.0	07分24秒	13分39秒
イ	5	6	83.3	64.2	04分25秒	06分40秒
ウ	2	5	40.0	51.3	05分07秒	05分26秒
エ	2	3	66.7	57.5	04分24秒	05分27秒
全体	23	31	74.2	63.6	21分20秒	31分12秒
未解答の問題	表示していない問題		あなたの見直し等の時間	埼玉県の見直し等の時間の平均		
なし	なし		18分40秒	08分48秒		

未解答の問題「あり」＝解答を入力していない問題がある
表示していない問題「あり」＝最後の問題まで表示していない

領域別の解答時間分布



※解答に「かけた時間」は、その問題を解き始めてから最初に解答が保存されるまでの時間です。
※「見直し等の時間」は、調査全体の時間から「かけた時間」を引いたものです。

正答率や「かけた時間」を県平均と比べることで得意・不得意を捉えるヒントになります。

※解答に「かけた時間」の県平均は、正答・誤答に関わらず全ての児童生徒を対象に集計しています。
※ルビ版を使用した場合、「かけた時間」は返却できません。

県平均と比べて時間をかけた問題

領域等	話すこと・聞くこと、書くこと	領域等	言葉の特徴や使い方
問題の概要	相手にわかりやすくなる順番に話の内容を並べ替える	問題の概要	反対の意味の言葉を答える
見直し回数	7	正誤	正 誤
正誤	正	県正答率	57.9%
かけた時間	05分12秒	かけた時間	01分06秒
県平均		県平均	
見直し回数	2	正誤	正 誤
正誤	正	県正答率	67.8%
かけた時間	02分23秒	かけた時間	01分06秒
県平均		県平均	

※全問正解や全問不正解や県平均ほど時間をかけていない場合には、「-」となって返却されます。
※見直し回数は、初めて解答が入力・保存された後に、その問題を再表示した回数です。

学習に関するアドバイス

今回の学力の状況や、今後どのような学習をすれば、お子さんの学力が上がるのかを記載しています。

※ 上記で示す学力は、この調査で測定したものであり、お子さんの学力のすべてではありません。

(2) 個人結果票（質問調査の結果～規律ある態度の達成目標～）の見方

達成目標とその達成状況

達成目標			R6
はじめのある生活 ができる	1 時刻を守る	通学はんの集合時こくや登校時こくを守ることができていますか	☆
		じゅ業や活動の始まる時こくを守ることができていますか	☆
	2 身の回りの整理 整頓をする	ぬいだはき物のかかとをそろえることができていますか	☆
		つくえやロッカーの中の整理整頓をすることができていますか	☆
礼儀正しく人と 接することができる	3 進んであいさつ や返事をする	自分からはっきりあいさつをすることができていますか	☆
		名前をよばれたら「はい」とはっきり返事をすることができていますか	☆
	4 ていねいな言葉 づかいを身に付ける	時と場におうじた正しい言葉づかいができていますか	☆
		相手の気持ちを考え、やさしい言葉づかいができていますか	☆
約束やきまりを 守ることができる	5 学習のきまりを 守る	学習のじゅんびを整え、じゅ業にのぞむことができていますか	
		先生の話や友達の発表をしっかりと聞き、自分の考えを伝えることができていますか	☆
	6 生活のきまりを 守る	人の集まる場所では静かにし、しせいを正すことができていますか	☆
		進んでそうじをし、学校をきれいにすることができていますか	

☆は選択肢の「よくできる」、「だいたいできる」、「あまりできない」、「できない」の中から、「よくできる」、「だいたいできる」を選択したことを表しています。

(3) 家庭での活用の仕方

① 「よいところ」「努力が必要なところ」を把握

調査では、学習した内容が「どれだけ身に付いているのか」がわかります。毎年調査を受けることで「学力の伸び」も見ることができます。結果を見て、お子さんの現在の学力を知り、それをどれだけ伸ばしていくかということが大切です。学校の先生と話し合いながら、お子さんのよさを伸ばしていきます。

② 一人一人にあった「目標の設定」

「よいところ」「努力が必要なところ」を把握したら、お子さんに合った目標を立てていきます。

③ 家庭学習の習慣化

目標に向けて学力を伸ばしていくためには、学校の授業の予習・復習を中心とした家庭学習を習慣化していくことが必要です。家庭学習を習慣化するためにルール作りも一つの手です。(県学調の復習シート <https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/images/fukusyuuusi-to2.html> も御活用ください。)

(4) 学級担任の活用の仕方

「個人結果票」は、児童生徒一人一人の調査結果を、児童生徒や保護者、先生方にお知らせするものです。児童生徒一人一人のつまづきを早期に発見し、その解消を図ることができるよう御活用ください。

返却前

個人結果票に、各学校で保管している個人番号票をもとに、名前を記入する。

※児童生徒に誤った結果が返却されないよう十分に確認の上、返却ください。

返却時

○児童生徒へ

- ・一人一人の1年間の伸びに注目し、認め、ほめてください。
- ・その後に苦手領域を中心に家庭学習をするよう言葉かけをします。
- ・解答ログに着目して、県の平均と比較して時間をかけている領域や問題について、適切に声かけをします。
- ・今後の学習計画に対するアドバイスをします。

○保護者へ

- ・可能な限り時間をかけて、お子さんのよさや課題を伝えます。
- ・伸びたところをほめるとともに、苦手領域を中心に家庭学習を行うよう伝えます。
- ・家庭学習には、県のホームページから本調査の「復習シート」をダウンロードして活用できることを伝えます。

(5) 学級担任・教科担当者の帳票結果の分析・活用（例）

1 活用方法 (解説動画: 県学調の特長3つ! 知っていますか? 編)

(1) 児童生徒の学力や学習に関する事項等の結果を把握し、つまずき等を早期発見する。

(2) 早期解消のため、PDCA サイクルを確立し、組織的に分析・検証等を行い、指導の工夫改善を進める。

(3) 児童生徒の1年間の伸びに注目し、認め、ほめるとともに、児童生徒、その保護者へ家庭学習を促す。

2 具体的な活用の流れ (解説動画)

埼玉県学力・学習状況調査の結果 (PDCA サイクルの CHECK)

○調査結果から、①各学校の実態を把握し、②分析を行うことで課題等を踏まえた③仮説を設定し、その仮説に基づく取組によって④ACTION(改善)を行うといったサイクルの確立につなげていただけたらと考えています。

○県教育委員会では、各小・中学校における分析等が効果的かつ円滑に行えるよう、分析・活用の例を作成しました。各小・中学校におかれましても、独自の分析等と併せて御活用ください。

内容	学級の 学力の伸びの状況	指導の工夫改善の 成果	各教科の 実態の把握
帳票の 分析例	<p>帳票40 児童生徒一人一人の学力のレベル・伸び・学習方略・非認知能力の数値から気になる児童生徒の把握・分析</p>	<p>帳票04 学校の回答と市町村教委、県平均の回答状況の比較</p> <p>帳票10 児童生徒の回答と市町村教委、県平均の回答状況の比較</p> <p>帳票04と帳票10 2つを比較することで、教職員と児童生徒の意識の差の分析</p>	<p>帳票09 各教科の領域ごと・設問ごとの正答率、無解答率や難易度を県平均との比較・分析</p> <p>帳票33 学力を伸ばした児童生徒の割合、学力のレベルの伸びの平均の把握</p> <p>帳票45 県平均と領域ごと・設問ごとの解答ログの比較</p>
活用例	・気になる児童生徒に対する具体的な手立てと方策の検討	・教職員と児童生徒が「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業を振り返り、調査結果を授業改善に活用	・既習事項と結び付けた導入の工夫 ・授業改善に向けた具体的な取組の検討
検討者、 検討場面例	・担任、学年職員 ・学年会	・校内研修 ・学年会	・教科部会 ・校内研修
参考資料	総合教育センター義務教育指導課研修用サイトを参照	質問調査の活用に当たって	帳票09解説動画

①実態把握

②分析

③仮説

ACTION (改善)

(6) 学校担当者の帳票結果の分析・活用 (例)

分析	学年全体の 学力の伸びの状況	学級の 学力の伸びの状況	各教科の 実態の把握	指導の工夫改善 の成果	学力を伸ばした教 員・よい取組の発掘
帳票の 分析例	帳票28 <u>1 平均学力のレベルの 状況の把握・分析</u> ①学力の伸び幅の違い ②学力のレベルの違い <u>2 学力階層別の伸びの 状況の把握・分析</u> ①学力層別の学力の伸 びの状況 ②埼玉県グラフの傾 きとの比較 ③各学力層の学力のレ ベルの把握	帳票40 児童生徒一人一人の 学力のレベル・伸び・ 学習方略・非認知の 数値から気になる児 童生徒の把握・分析	帳票09 各教科の領域ごと・設 問ごとの正答率、無解 答率や難易度の県平均 の比較・分析 帳票33 学力を伸ばした児童生 徒の割合、学力のレベ ルの伸びの平均の把握 帳票45 県平均と領域ごと・設 問ごとの解答ログの比 較	帳票04 学校の回答と市町村教 委、県平均の回答状況 の比較 帳票10 児童生徒の回答と市町 村教委、県平均の回答 状況の比較 帳票04 と 帳票10 2つを比較することで、 教職員と児童生徒の意 識の差の分析	帳票42 帳票を前学年の学級ご とに並べ替え、「学力の 伸びの平均」や「学力を 伸ばした児童生徒の割 合」を計算することを分 析
活用例	・学力を伸ばした先生が行 っている効果的な取組を学 校全体で共有	・気になる児童生徒に対 する具体的な手立てと 方策の検討	・既習事項と結び付けた 導入の工夫 ・授業改善に向けた具体 的な取組の検討	教職員と児童生徒が「主体 的・対話的で深い学び」の視 点から授業を振り返り、調査 結果を授業改善に活用	・学力を伸ばした先生が 行っている効果的な取組 を学校全体で共有
検討者、 検討場面 例	・校内研修 ・学年会	・担任、学年職員 ・学年会	・教科部会 ・校内研修	・校内研修 ・学年会	・学校担当者
参考資料	帳票28 解説動画	総合教育センター義務教育指 導課研修用サイトを参照	帳票09 解説動画	質問調査の活用に当たって	令和5年度埼玉県・学力学習状 況調査報告書

さらに分析を進める方法

- コバトンのびのびシート(学力に課題のある児童生徒の学力や学習の状況把握等)
- 分析支援プログラム(「学力の伸び」の階層と児童生徒質問調査項目のクロス集計)

仮説を設定するまでのプロセス(例)



協議、意見交換を経て、仮説を設定し、それに基づいた改善を行っていきます。

なお、校内研修で、教科部会と学年会でそれぞれ検討したものをとりまとめ、協議し、全校の取組にすることなども考えられます。

協議例1 どのような学力状況にある子供を重点的に伸ばしていくか。

- 学力が下位で、伸び悩んでいる子供を伸ばしたい。
- 「自分の考えを書くことが苦手」で、伸び悩んでいる子供を伸ばしたい。
- 伸びている子供を、もっと伸ばしたい。

(例えば伸びが著しい子供が中位層に集中している学校など)

協議例2 学年(学校)として、どのようにして伸ばしていくか。

- 効果的と思われる取組を学年(学校)に広げたい。
- 学校の強みとして表れている項目を地域・保護者に広めたい。

仮説の設定

● 学年(学校)、教員独自の仮説を設定し、仮説に基づく取組、検証を行う。

<仮説> (協議・意見交換により設定)

例 「授業などで、自分の考えを、理由を付けて発表したり書いたりする機会を増やすことで、学力が伸びる子供たちが増えるだろう。」

<重点項目> (学年(学校)の実態及び協議・意見交換から設定)

- 例 ① 学力の階層が低い子供へのきめ細かな指導を行う。
- ② 授業規律を大切にする。

帳票42の活用例

伸ばした先生の効果的な取組の共有

【例】伸ばした先生への聞き取りや授業参観(「[授業力](#)」[自己診断シート](#)を活用した参観など)

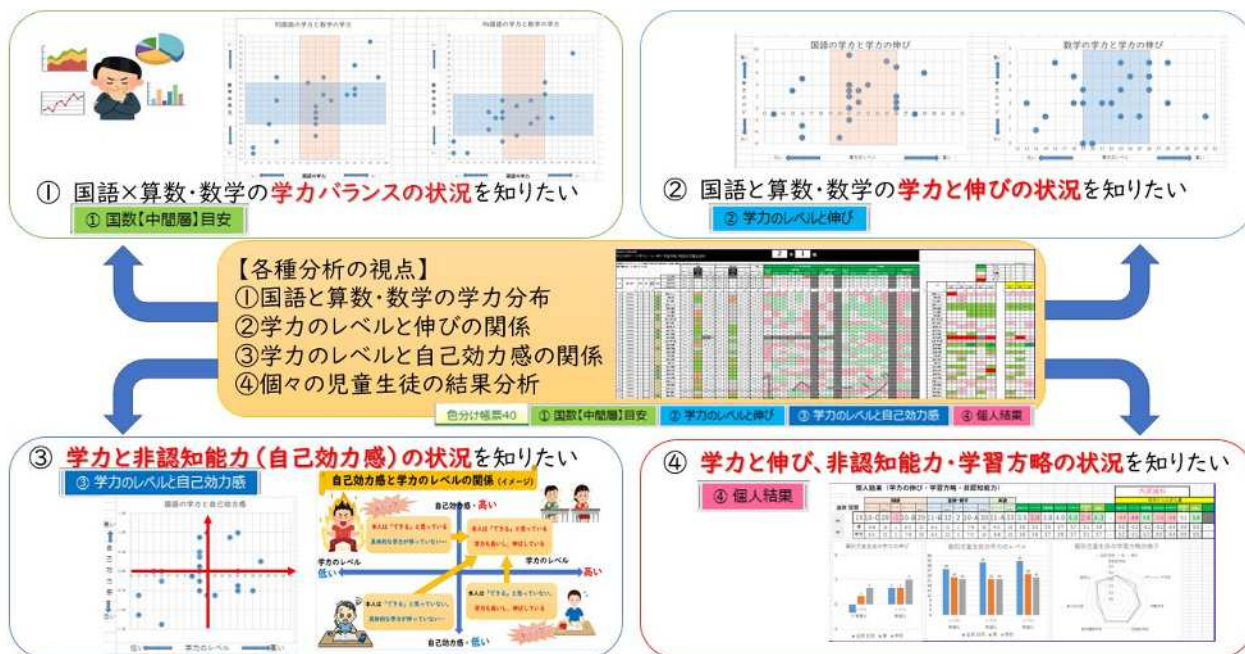
<聞き取り例>

- ・子供たちと接するとき、心がけていること(前向きな言葉かけ、一緒に遊ぶ等)
- ・授業の導入場面での工夫(興味をもたせる導入、めあて・見通しのもとせ方等)
- ・授業の展開場面での工夫(言語活動の充実、ペア・グループ活動の設定等)
- ・授業の終末場面での工夫(まとめの仕方、振り返りの充実等)
- ・学年で指導を徹底した取組(規律ある態度の指導、ノート指導、掲示物の工夫等)
- ・家庭学習の取組ませ方(目安の時間の設定、チェックシートの活用、予習・復習等)

(NEW) 帳票 40 色分けツールの活用・分析（例）

新しくリニューアルした帳票 40 色分けツールについて紹介します。

帳票 40 は子どもたち一人一人の学力の伸びや非認知能力・学習方略の様子が一目でわかる帳票です。しかしながら、県学調は個人情報を取得できないため、返却されたものは個人番号順であり、出席番号や氏名もなくすぐに活用できる状態ではありません。そこで学校に保存してある個人番号管理表を活用し、ひと工夫するだけで色分けができるツールを令和 3 年度から配布してまいりました。今年度の変更は個人番号管理表が変わったことに伴う修正と、より多面的な視点で分析ができるように分析シートを追加しました。



(NEW) 帳票 09 色分けツールの活用・分析（例）

帳票 09（原本）は各学年の平均正答率や学力のレベルとその伸びに加え、各領域の様子や、個別の問題ごとの正答率の様子がまとまっています。その帳票 09 に色を付けて分析するツールや、クラス版の帳票 09 が作成できるツールを作成しましたのでご紹介いたします。

確認ポイント①
県平均正答率と当該クラスの平均正答率の差を確認し、クラスの現状を俯瞰して見る

分類	区分	正答率	平均正答率	差		
教科の領域等	数と式	13	59.8	61.9	51.7	-8.1
	図形	9	50.4	50.2	41.8	-8.6
	関数	6	62.9	62.8	55.1	-7.7
	データの活用	5	67.6	67.4	57.5	-10.1
評価の観点	知識・技能	25	62.2	62.9	52.8	-9.4
	思考・判断・表現	8	48.9	49.8	43.9	-5.5
問題形式	選択式	19	61.2	61.5	-	-6.7
	記述式	-	-	-	-	-

確認ポイント②
県平均正答率と自校の平均正答率の差を領域ごとに確認し、クラスの現状を分析する

クラス版の帳票 09 の操作画面（基本変更）

県クラス 0.2
クラス 2.4
差 -3.1

県クラス 0.2
クラス 2.4
差 -3.3

県クラス 0.2
クラス 2.4
差 -3.9

県クラス 0.2
クラス 2.4
差 -3.1

県クラス 0.2
クラス 2.4
差 -3.3

県クラス 0.2
クラス 2.4
差 -3.9

【参考】色分けツール・マニュアルの保存場所

色分けツールを手に入れるには...

(義務教育指導課研修用資料サイト)

- ①「埼玉県立総合教育センター」HPを開く
- ②ページ内下部「義務教育指導課研修用資料サイト」をクリック
- ③個々のID・PASSでログイン
- ④県学調活用資料のページからDL



県学調活用資料

令和6年度版の帳票09、40を活用するツールを動画説明の下に掲載しました。(R6.8.8更新)

① [令和6年度埼玉県学力・学習状況調査の活用方法等説明資料](#)

- (1) 【配布用】PDCAサイクル.pptx
- (2) 【配布用】03【帳票40Ver.2.1:色分け】.pdf
- (3) R6県学調活用説明資料.pdf

② [活用方法説明動画一覧](#)

※新しい動画をクリックするとYouTube(既定公開)に遷移します。



ID : PASS:
市町村・学校ごとに割り振られています。
「優れた指導技術の共有・普及(映像)」のもの
御確認ください。

2 授業改善への活用

(1) 教科別授業改善の視点

国語科

【今年度の調査から見られた課題（傾向）】

- 小学校では、全学年で「読むこと」の平均正答率が他領域よりも低くなっており課題が見られる。
- 中学校では、学年ごとに正答率の高い領域と課題の見られる領域が異なる。中1では「読むこと」中2では「情報の扱い方、我が国の言語文化」、中3では「話すこと・聞くこと、書くこと」に課題が見られた。

【主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の視点】

○「主体的な学び」の実現に向けた授業改善

授業や単元で身に付けさせるべき言語能力を明確にすることで、児童生徒が学習に見通しをもち、自らの学習を調整しながら主体的に学習に取り組むことができるようにしましょう。

○「対話的な学び」の実現に向けた授業改善

言語活動を通して、児童生徒が課題の解決に向けて他者と話し合ったり交流したりする場面を意図的に設けましょう。そして、その際には児童生徒が解決すべき課題を明確にすることや他者との意見や考えの比較がしやすくなるように工夫することなどが大切です。

○「深い学び」の実現に向けた授業改善

児童生徒が、既習事項を活用しながら、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高められるようにし、「言葉による見方・考え方」を働かせられるようにしましょう。

算数、数学科

【今年度の調査から見られた課題（傾向）】

- 小学校では、「数と計算」の「2位数の除法の計算ができる」、「図形」の「平行な直線とそれと交わる直線でできる角度を求める」「角柱について、平行な面を選ぶ」の正答率が高い傾向であった。
- 中学校では、「変化と関係」の「等しい比を選ぶ」（第1学年）「数と式」の「正負の数の加法の計算」（第2学年）「文字式の計算」（第3学年）の正答率が高い傾向で、「関数」の領域で課題が見られた。

【主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の視点】

○「主体的な学び」の実現に向けた授業改善

授業準備の際に、自校の児童生徒の領域の正答率、解答ログ等の状況と県平均との差異を確認しながら、授業内で児童生徒に既習事項との系統性を意識させる工夫を検討しましょう。学習のねらいに迫る課題を児童生徒とのやり取りから設定したり、新たな問いを見出したりしましょう。授業の振り返りの場面では、児童生徒と対話をしながら、児童生徒の言葉を使って振り返りを行い、まとめは児童生徒一人一人にノート等に行わせましょう。

○「対話的な学び」の実現に向けた授業改善

本時のねらいに迫る発問や適切な切り返しを通して、児童生徒一人一人が考えをもつための支援をしましょう。また、問題を焦点化し自己との対話や他者との考えを比較検討するなどして、考えを広げ深めることができるようにしましょう。

○「深い学び」の実現に向けた授業改善

児童生徒が数学的な見方・考え方を働かせ、既習事項との共通点などを見いだすことにより、統合的・発展的に考える機会を設定しましょう。

【今年度の調査から見られた課題（傾向）】

- 中2、中3ともに、与えられた情報に基づいて、人物の情報を正確に書くことに課題が見られた。
- 文法事項としては、動詞、助動詞などの活用に課題が見られた。

【主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の視点】

○「主体的な学び」の実現に向けた授業改善

単元目標と本時の目標を明確に示して、生徒が見通しをもった学びをできるようにするとともに、ここまで学習してきたこととできるようになったことを示し、単元の目標を達成するために本時の学習と既習事項のつながりを意識した授業づくりを実践しましょう。

○「対話的な学び」の実現に向けた授業改善

コミュニケーションを行う目的・場面・状況や、相手意識もたせ、必然性のある活動を設定しましょう。言語活動では良い表現や課題を共有する中間指導（活動の間に行う指導）を取り入れましょう。また、対話を通して得た情報や表現を活用してより豊かな表現にさせるよう工夫するなど、生徒の考えを広げ深めさせるようにしましょう。

○「深い学び」の実現に向けた授業改善

生徒が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、相手を意識して自分の考えを文章等でまとめる活動を設定しましょう。また、振り返りの場面で学習課題をどのように解決したかを考えさせたりするなど、生徒が深く思考等をするための支援をしましょう。

【参考資料】 主体的・対話的で深い学びの実現 6則

埼玉県教育委員会

埼玉の子供たちを「人財」として輝かせるために！

主体的・対話的で深い学びの実現 6則

毎日の授業では、子供たちが「知識・技能」だけでなく、「思考力・判断力・表現力等」や「学びに向かう力・人間性等」など、これからの時代に求められる**資質・能力**を身に付けられるよう、教員が**変容(伸び)**を見取ることが大切です。そのためには、**主体的・対話的で深い学びの実現**に向けた**授業改善**が有効です。…あなたの授業を見直してみませんか？

変容によって…

- 機械的に記憶するよりも意義や意味を考慮することで、より一層、知識や技能の定着を図ることができる。→**知識・技能の習得**
- 自分で課題を見付け、自ら学び、考え、主体的に判断、行動し、よりよく問題解決する資質や能力が向上する。→**思考力・判断力・表現力等の育成**
- 主体性に加えて、チームワークや優しさなど、人間性が向上する。→**学びに向かう力・人間性等の涵養**

1. 【主体的・対話的で深い学びって何？】

- 主体的な学び: 学習活動を見直し、**振り返り**、課題を解決していこうとすること
- 対話的な学び: 学び合い等、他者と協働すること等によって、**自己の考えを広げ深めること**
- 深い学び: **見方・考え方を働かせて、より深く理解したり考えを形成したりすること**

2. 【何のために、主体的・対話的で深い学びの実現を？】

「何ができるようになるか」という子供たちに必要な**資質・能力**を育成するため。そのためには、「何を学ぶか」という**学習内容**と、「どのように学ぶか」という**学びの過程**を組み立てていく**授業改善**が重要である。

- 目指すのは、「何ができるようになるか」(変容すること)である。
- 一言指導やグループ学習等の手法や技術等の改善、型の実践の必要性を考えるとこうではない。
- 子供たちに**資質・能力**を育成するために、学習内容(「何を学ぶか」)を明確にし、目の前にいる子供たちに、どんな**学びの過程**(「どのように学ぶか」)がふさわしいのかを見極めることが大切である。

変容が大事
学びの過程を質的に高めるという視点を！

3. 【「どのように学ぶか」をいま一度見直す】

子供たちが学習内容を深く理解し、**資質・能力**を身に付けるために、特に、「**どのように学ぶか**」という**学びの過程**に着目して、**授業の質を高めること**。

- 資質・能力の育成に向けて、子供たち一人一人の興味や関心、発達や学習の課題等を踏まえ、それぞれの個性に応じた学びを引き出していく上で、特に、**主体的・対話的で深い学び**の視点を踏まえた「どのように学ぶか」という**学びの過程**について着目し、授業の工夫・改善に取り組むことが重要である。

4. 【変容を見取ること】

「**何ができるようになるか**」という視点で、教員は子供たちの**変容(伸び)**を見取ること。

- 子供たち一人一人が**資質・能力**を身に付けて、何ができるようになったかという**変容(伸び)**を子供たち自ら実感し、教員もその**変容(伸び)**を見取れるようにすることが大切である。

5. 【信頼関係に基づく学級づくりを】

主体的・対話的で深い学びを目指した授業と、信頼関係に基づく学級づくりを「車の両輪」として進めていくこと。

- 学級は、子供たちが日々の生活を共にする基礎的な集団であり、学習活動や学校生活の基盤となることから、担任をはじめとした全教員と子供たちの信頼関係及び子供たち相互の好ましい人間関係づくりが重要である。
- 子供たち一人一人の発達を踏まえた上で、学級での人間関係を豊かにし、コミュニケーション能力を高めることで、各教科等の授業において**主体的・対話的で深い学びの実現**につながり、さらに学級づくりが充実する。

6. 【学び続ける教員集団であるために】

授業改善を目指して、教員同士で、深く考え、学びを通じて**変容**すること。

- 教員が子供たちに求められる**資質・能力**を育むために、必要な**学びの在り方**を絶えず考え、教員同士で学び合うことで、様々な観点から授業の工夫・改善について議論を重ね、**主体的・対話的で深い学びの実現**を目指す。

「**何ができるようになるか**」
「**何を学ぶか**」
「**どのように学ぶか**」

学びの過程を質的に高めるという視点を！

超編力の高まり
資質・能力の向上

教員同士で現状を分析し、まずは**できることから始めることが重要**です。「これでよい」という正答は1つではありません。常に子供たちのために**授業を改善**していくことが大切です。

(2) 学習指導のポイント

小学校 第4学年 国語15

問題の学力のレベル
レベル7-C

○ 調査問題

15 次の文章を読んで、(3)の問いに答えましょう。

風花さんが本を読んでいると、「ごはんをよそい、テーブルに運ぶ。」という文が出てきました。風花さんは「よそい」の意味がわからなかったので、兄の明さんにたずねました。
明さんは、国語辞典を引けばよいと言いました。そして、「よそい」を国語辞典で調べるときは、「①」という言い切りの形に直して調べるのだと教えてくれました。
風花さんは国語辞典で調べて、この言葉にはいくつかの意味があることがわかりました。

(3) 次の4つの言葉を、国語辞典で調べるときに出てくる順番にならべかえましょう。

しあわせ じっくり しごと するし

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】 国語辞典に出てくる順に言葉を並べ替える

【出題の趣旨】 辞書の正しい使い方を理解する

○ 誤答分析

解答類型	① 正答 しあわせ⇒しごと⇒ じっくり⇒するし	9 その他の解答	0 無解答
反応率	37.5%	60.2%	2.2%

○ 正答率は37.5%であった。

○ 主な誤答は、「しあわせ⇒しごと⇒するし⇒じっくり」と回答したものや「しあわせ⇒するし⇒しごと⇒じっくり」と回答したものであった。「じっくり」は濁点がつき、促音が入っているからという理由で、4番目に選んだ児童が多かったように考えられる。また、「しごと」も濁点がついているため、清音でできている「するし」を先に回答している誤答も多く見られた。

○ 単語そのもので考えるのではなく、1文字目、2文字目と順番に比べてみていくことを基本とし、清音⇒濁音⇒半濁音の順序で載っていること、促音がついていても、五十音順に並んでいるという国語辞典のルールを確認したい。それらのルールを定着させていくには、短い時間であっても、継続して国語辞典を活用する活動を常時取り入れていく必要がある。

○ 復習シートとの関連

【出典】 R2 復習シート 【学年・単元】 小学校4年生 言葉

【参考URL】 <https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/198914/r2s4koku-kotoba-q2.pdf>

○ 指導上のポイント

国語辞典の使い方を学習した後、辞書を継続活用し語彙を豊かにしていく指導

【見出し語の順序・ルールを確認する場面】

【季節の言葉を学習する場面】 ※ICT との関連

見出し語が
どんなじゅん
でならんでい
ますか。国語
辞典でたしか
めよう。

あ
あ
あ
あ
あ

どんな順か、予想してから国語辞典でさがして確かめてみましょう。

始めの文字は全て「あ」だね。そうしたら、次の文字で比べよう。

「し・じ・つ」の順になりそうだよ。でも、「あじ」と「あした」だったらどっちが先かなあ？

辞書で引いてみよう。「あじ」と「あした」だったら、「あじ」の方が先に載っているね。2文字目だけで比べてはだめなんだね。

次は3文字目だね。「あした」と「あじさい」だったら、2文字目は「じ」の方が後ろだけど、「た」と「さ」だったら「さ」の方が先だね。「あじさい」が先なんだね。
『上から順に1文字ずつ』だね。

では、「パン・はん・バン」だったらどうかな。「じゅう」と「じゅう」だったらどうかな。みんなで協力して調べてみましょう。

秋にぴったりの言葉を見つけよう。

辞書の中からいくつ見つけれられるかな。

「秋」から調べてみたら、「秋口」「秋晴れ」「秋の七草」が見つかりました。

「すずしい」から調べてみたら「すずき」「涼風」「鈴虫」も見つかったよ。「涼風」って初めて聞いたよ。「すきま風」「炭火」はもう少し寒い冬の言葉かな。

国語辞典の様々なルールを教師が一方的に説明するのではなく、実際に辞書を引かせながら、児童が自分の言葉で説明できるようにさせることが大切です。さらに、辞書を活用して語彙を広げていくためには、授業内の指導だけで終わることなく、手元に辞書を置き、いつでもどんな場面でも使えるような環境を整え、継続して活用していくことが重要です。



中学1年「語彙」の指導において「語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意」とあります。小学校の「読むこと」の学習でも難語句の意味調べで終わらず、文脈に合わせた意味理解ができるように指導していくことが大切です。

小中連携
の視点

○ 指導上のポイントにおけるICT端末の活用について

	Aさん	Bさん	Cさん
秋らしい言葉	スイートポテト	赤とんぼ	秋雨前線
	スカーフ	アキアカネ	秋晴れ
	涼風(すずかぜ)	秋落ち	秋日和
	すずき	秋風	秋めく
	すずしい	秋草	あけび
	すずなり	秋口	霜さ寒さも彼岸まで
	すずむし	秋雨	
	すずもよう	秋なすび	
	スポーツの日	秋の七草	

本時では【「あ」もしくは「す」から始まる言葉】という制限を設けて、時間内に協力して辞書から探す活動に取り組んだ。辞書を引く範囲に制限を設けることでより探しやすくなり、見出し語の順にも気が付きやすくなった。



辞書で引いた言葉を同時編集ができる表計算ソフト(スプレッドシート)に各自が打ち込んでいき、班で言葉をたくさん集めていく。その中で秋にぴったりの言葉はどれか、互いに見つけた言葉について話し合う時間を設けた。班ごとにシートを分けているが同じファイルにしているので、他の班が調べたものも共有できるようにした。

○ 調査問題

18 次の文章を読んで、あとの問い(1)～(4)に答えましょう。

1 イヌもネコも人間も、舌の表面を中心に「味蕾」という味を感じる感覚器をもっています。生物が味覚という感覚を得たのは、口に入れたものが食べものかどうか判断するためでした。過去に食べたものとのちがう味、おかしな味がしたら、有害かもしれない。腐んできたり、腐っているかもしれないので、べつと吐き出す。遠い祖先からそんなことを繰り返してきたのです。そこに進化の過程で「味わう」という要素が加わって、味覚が発達してきたと考えられています。

2 哺乳類を見ると、味蕾の数は肉食動物で少なく、草食・雑食動物で多い傾向があります。雑食の人間が5千～8千個ほどのに対し、身近な肉食動物のネコは500個前後。一方、草しか食べていないはずのウシには、人間の3～5倍の2万5千個も味蕾があり、微妙な草の味のちがいを感じながら食べているようです。意外です。

3 鳥類の舌にももちろん味蕾はあり、味のちがいを感知することができます。ですが、一般に、鳥類は哺乳類に比べて味蕾の数が一桁から二桁も少ない傾向があります。

4 哺乳類は歯で噛みちぎり、咀嚼して飲み込みます。鳥類は口がクチバシに進化したために噛めず、エサをそのまま飲み込むことが多くなりました。つまり、味を感じることもなく胃へと送られてしまう。これでは味蕾があってもあまり意味がないということとで、その部分が退化したと考えられています。

5 実際、泳ぎながら魚やイカを丸飲みしているペンギンは、味蕾も少なく、酸味と塩味以外の味覚を失っている可能性が高いという研究報告もありました。人間が感じる味覚には、甘味、酸味、塩味、苦味、うま味、の5種類がありますが、ペンギンは甘味など、3つの味覚を退化させて、失ってしまったようです。

6 地上で育つハトやコトドリにも、数十個という数の味蕾しかありません。それで、問題が生じないのは、多くの鳥が、「実が赤く熟せば食べられる。緑のままだとまだ固い。茶色になったら腐った証拠」など、食べられるかどうかの判断を、味ではなく、目で見て行っているからです。

7 鳥は総じて味蕾の数が哺乳類よりも少ないのですが、インコ・オウム類はかなり特殊で、およそ360個と、鳥類の中でもっとも多い味蕾をもちます。比較すると、ネコよりもわずかに少ない数、ということになります。しかも、インコやオウムの味蕾は多くの鳥類とはちがっていて、哺乳類の味蕾にそっくりなかたちをしていることもわかっています。

※1 哺乳類：哺乳動物。呼吸し、乳で子を育てる動物。
※2 咀嚼：食べ物を噛みくだくこと。

(2) 3つの味蕾を退化させたとありますが、具体的にどの味覚を退化させましたか。次の2つの にあてはまる言葉をぬき出して入力しましょう。

<解答らん>
甘味と と

○ 調査問題の趣旨・内容

- 【問題の概要】 文章中の語句が具体的に指している言葉を空欄に合うように抜き出して入力する。
- 【出題の趣旨】 事例に注目して文章の内容を捉える。

○ 誤答分析

解答類型	① 正答 「苦味」、「うま味」と解答	9 その他の解答	0 無解答
反応率	38.5%	57.0%	4.5%

- 正答率は38.5%であった。
- その他の解答の中では「酸味」、「塩味」と解答した比率が53.1%と最も多かった。理由は、本文⑤段落2行目の「酸味と塩味以外の味覚を失っている可能性が高いという研究報告……」の「以外」を読み飛ばしている可能性が考えられる。
- 文の中での語句の役割や語句相互の関係に気を付けて文の構成についての理解を図ると共に、段落相互の関係から、筆者の意図する考えやそれを支える理由や事例などを構造的に捉えることが大切である。

○ 復習シートとの関連

- 【出典】 R6 復習シート【学年・単元】 小学校5年生 読むこと
- 【参考 URL】 <https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/198914/r6s5kokuq.pdf>

○ 指導上のポイント

① 叙述を基に、文章の内容を捉えるための指導

① 語彙を増やす工夫 児童が理解していない語句は、意味を確認することが大切です。



長い文章だと、内容が分からなくなってしまふことがあるよ。どうしたら、内容を正しく読めるかな。

文章以前に言葉の意味が分からないよ。「退化」って何？



「退」の字は「しりぞく」の意味だから…。



「退化」「進化」とあるから、関係する言葉かな。

辞書を引いて確認しよう！

読んで分かったことを伝え合ひましよう。



④ 哺乳類は歯で噛みちぎり、咀嚼して飲み込みます。鳥類は口がクチバシに進化したために噛めず、エサをそのまま飲み込むことが多くなりました。つまり、味を感じることもなく嚥へと送られてしまう。これでは味覚があってもあまり意味がないということとで、その部分が退化したと考えられています。

⑤ 実際、泳ぎながら魚やイカを丸飲みしているペンギンは、味覚も少なく、酸味と塩味以外の味覚を失っている可能性が高いという研究報告もあります。人間が感じる味覚には、甘味、酸味、塩味、苦味、うま味、の5種類がありますが、ペンギンは甘味など、3つの味覚を退化させ、失ってしまったようです。

⑥ 地上舞らしのハトやニワトリにも、数十という数の味覚がないことがわかっています。それでも問題が生じないのは、多くの鳥が、「実が赤く熟せば食べられる。緑のままだとまだ固い。茶色になったら腐った証拠」など、食べられるかどうかの判断を、味ではなく、目で見て行っているからです。

② 文の構成についての理解

文の中での語句の役割や、語句相互の関係に気を付けて読むことが大切です。



言葉の意味を確認したら、内容が繋がってきたよ。関連した言葉を考えて読もう。

段落の初めは、「つなぎ言葉」が使われることが多いね。着目して読んでみよう！



文章全体を読むのは難しいけれど、段落で区切って読むと読みやすいね。

言葉の意味が繋がると、段落ごとの意味や段落同士のつながりも分かりやすいね。



小中連携の視点

中学校では、説明や記録などの文章を読み、理解したことや考えたことを報告する学習活動を行います。小学校のうちに、段落相互の関係に着目した読み方や、文章の全体像を捉える読み方を身に付けることが大切です。

○ 指導上のポイントにおけるICT端末の活用について

デジタル教科書を用い、全文を1枚に収めて児童へ配信する。

キーワードに印をつけたり、関連する段落同士を線でつないだりできる。



線を引いたり四角で囲んだり、すぐできる。線を引き直すのも簡単。

ページをめくらずに文章全体を見られて、離れた段落同士の関係も考えやすい。



文章全体の構造も分かりやすくなる。

○ 調査問題

<解答らん>

- 「～は」「～が」に当たる意味の漢字が上に来る組み合わせ
- 「～を」「～に」に当たる意味の漢字が下に来る組み合わせ
- 上の漢字が下の漢字をくわしくする関係の組み合わせ
- 似た意味を持つ漢字の組み合わせ

得点

4
次の熟語の漢字の組み合わせを、あとの解答らんの
中から一つ選びましょう。

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】 熟語の漢字の組み合わせの説明として適切なものを選択する

【出題の趣旨】 熟語の構成を理解する

○ 誤答分析

解答類型	① 正答 「～を」「～ に」に当たる 意味の漢字 が下に来る 組み合わせ	2 上の漢字が 下の漢字を くわしくす る関係の組 み合わせ	3 「～は」「～ が」に当た る意味の漢 字が上に来 る組み合わせ	4 似た意味を 持つ漢字の 組み合わせ	9 その他の 解答	0 無解答
反応率	23.6%	58.1%	9.6%	8.3%	0%	0.3%

- 正答率は23.6%であった。
- 最も多い誤答は、「上の漢字が下の漢字をくわしくする関係の組み合わせ」と解答していることであった。理由としては、「得る」を動詞として捉えられていないこと、また、「得(え)た点」「得(とく)した点」と考える児童が多かったことが予想される。
- 「熟語の成り立ち」は、4年生・6年生で扱う内容である。5年生でも学習や生活と関連付けて取り上げ、繰り返し学ぶことで定着していくものと考えられる。また、学習した後に、練習問題を解くという指導になりがちであるため、子供たちが主体的・対話的に学ぶ中で、理解し定着していく指導の工夫が必要である。

○ 復習シートとの関連

【出典】 R3復習シート R6復習シート

【学年・単元】 小学校6年生 言葉

【参考 URL】 <https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyoubu/images/fukusyuusi-to-kokugo.html>

○ 指導上のポイント

児童が発見する喜びを味わい、「熟語の成り立ち」を理解することにつなげる指導

【既習の熟語から共通点を見つけ出す学習】

近古最山③ 所都多頂	増売高上① 減買低下
開見帰読④ 店物国書	行身願救② 進体望助

これらの熟語は、ある共通点で分けられています。どんな共通点があるでしょう。話し合ってみましょう。

①は、「上と下」「高いと低い」「売ると買う」「増えると減る」
訓読みにすると、反対の意味の組み合わせになっているね。

②は、「救う、助ける」「願う、望む」「み、からだ」「行く、進む」
訓読みにすると、似ている意味の組み合わせになっていることが分かるね。

③は、「山の頂」「最も多い」「古い都」「近い所」
訓読みで文を作ると、上の漢字が下の漢字の様子をくわしくしていることが分かるよ。

④は、「読書は、書を読むこと」「帰国は、国に帰ること」「見物は、物を見ること」「開店は、店を開くこと」
熟語の意味が分かると、下の漢字が「～を」や「～に」になっていることが分かるよ。

「訓読みにしてみること」「意味を考えてみること」が、どのような組み合わせになっているのか判断する手がかりになりますね。

【既習の熟語から問題を作る学習】

漢字ドリルや教科書、身の回りから二字熟語を探して、班で熟語の成り立ちクイズを作りましょう。

【例】

「木刀」「無色」「流星」「竹林」「同時」「人力」「深海」「伝言」「加入」「消失」「周辺」「勝敗」「強弱」「老木」「海底」「開票」「着陸」「得点」「貯金」「洗顔」など

訓読みができても、漢字の意味が分からないと、どの組み合わせか分からない熟語もあるね。意味や用例も一緒に調べていこう。

「得点」は、「得た点」かな？「点を得る」かな？
「貯金」は、「貯めた金」かな？
「金を貯める」かな？

どちらにも当てはまるときには、「～を」「～に」の文章にすることができかどうかで考えましょう。それができれば、『下の漢字が「～を」「～に」になっている熟語』になります。

熟語の成り立ちの共通点を話し合わせたり、クイズ作りを通して熟語に対する意欲を高めたりすることで、熟語を構成の視点から捉え、理解を深めることができます。

「語句と語句との関係」を理解することを通して、中学校で学ぶ「類義語、対義語、同音異義語、多義的な意味を表す語句など」についての理解が深まります。それにより、語感が磨かれ、語彙を豊かにすることが期待されます。

小中連携の視点

○ 指導上のポイントにおけるICT端末の活用について



右折	登山	消火	岩石	血管	明暗
右に折れる(曲がる)	山を登る	火を消す	岩と石	血の管	明るい暗い
(ここ)に入力できます	(ここ)に入力できます	(ここ)に入力できます	(ここ)に入力できます	(ここ)に入力できます	(ここ)に入力できます
③	④	④	①	③	②

児童が話し合いながら作成した熟語の成り立ちクイズ



言葉(熟語を含む)を集める場所を作成し、見つけた言葉を自分のタイミングでいつでも書き込むことができる環境を整える。言葉が増えていくことが目に見えて分かると意欲が向上する。これを積み上げていくことが熟語の成り立ちの定着、語彙の豊かさにつながる。

↑イラストがヒントになっており、視覚的にも学ぶことができる。

○ 調査問題

<解答らん>

主語

昨日、母はその店で、ケーキやプリンなどのあま
いものを妹に買った。

11 次の文の——線部に対する主語を抜き出して入力
しなさい。

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】文の主語を抜き出す

【出題の趣旨】文の構成を理解する

○ 誤答分析

解答類型	①正答 「母は」と解答	2 「妹に」と解答	9 その他の解答	0 無解答
反応率	37.4%	8.4%	52.8%	1.4%

- 正答率は37.4%であった。
- 主な誤答は、「妹に」や「あまいものを」であった。理由としては、「買った」の修飾語を選択している解答が多いことから、主語（何が・誰が）と述語（どうした・どんなだ・何だ）の関係を捉えることができていないことが考えられる。
- 主語を捉える際、「～は」や「～が」、「～も」などの助詞だけで判断するのではなく、文章全体の様子をイメージした上で、文の構成（主語・述語・修飾語）について理解できるようにすることが大切である。

○ 復習シートとの関連

【出典】R1 復習シート 【学年・単元】中学校1年生 言語事項 2

【参考 URL】 <https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/198939/h31c1koku-gengo-q.pdf>

○ 指導上のポイント

具体的な場面のイメージから主語・述語・修飾語の関係に気付き、理解を深める指導

(1) イメージして捉えることで主語と述語の関係に気付く学習

・物語のあらすじを紹介する活動

(台本) タクヤくんはサッカー好きの男の子で、毎朝、弟のシンジくんとグラウンドで練習し、いつかプロの選手になることを夢見ている。



(例) 紙芝居で表現する児童



私は紙芝居で紹介しようと思うんだけど、どうかな。

あれ、プロの選手になりたいのは誰なの？

主人公をはっきりさせるために、短い文にしてみたらどうかな？

- ① タクヤくんは、サッカーが好きで男の子です。
- ② タクヤくんは、毎朝、弟のシンジくんとグラウンドで練習しています。
- ③ タクヤくんは、いつかプロの選手になることを夢見ています。



短い文3つで分けてみると、全て主語はタクヤくんだ。こうすると、主人公はタクヤくんで、プロの選手になりたいのもタクヤくんだとわかりやすくなるね。



(2) 主語・述語と修飾語の関係に気付く学習

左の絵を、一文で説明しましょう。

青い服を着た**男の子**が釣りました。



今日、**男の子**が枝でザリガニを**釣りました**。

二人の文章は、同じ主語と述語が使われていますね。
主語(何が)・**述語**(どんなだ)以外の言葉を修飾語といいます。修飾語には、どんな特徴があるのでしょうか。



修飾語には、主語と述語を詳しくしている働きがあるよ。

修飾語は主語や述語と違って、一つの文に何個もあるね。



○ 指導上のポイントにおけるICT端末の活用について



タクヤくんは、いつかプロの選手になることを夢見ています。



(1)においては、表現の方法の一つにプレゼンテーションソフトの活用が考えられる。アニメーションをつけて動きを加えると、主語と述語の関係がより捉えやすい。

(2)においては、児童が思いついた修飾語をホワイトボードアプリ等で共有し、被修飾語別に分類・整理することで、修飾・被修飾の関係の理解がより深まる。

○ 調査問題

23 A中学校の生徒会では、1週間前に行われた球技大会の反省会をしています。

(2) (1) のアンケート結果を受けて、生徒会では対策を考えることになりました。生徒会の話し合いの様子の動画を最後まで見て、あとの問いに答えなさい。

問い 話し合いの様子の動画にある空欄アとイについて、あとの条件1、条件2にしたがい、発言内容を考えて解答しなさい。

条件1 アには、生徒の意見のうち、課題①を解決するために参考にできるものを全て選ぶこと。

条件2 イには課題の解決策を、生徒の意見をふまえて1つ考え、30字～50字で入力すること。



○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】 集めた情報を整理し、適切にまとめる。

【出題の趣旨】 比較や分類など、情報の整理の仕方について記述する。

○ 誤答分析

(正答の条件) ① 解答欄アで B・C・E をすべて選択している。

② 解答欄イに 30 字以上 50 字以内で解答している。

③ 解答欄イに B・C・E のいずれかの課題の解決策を書いている。

解答類型	① 正答 正答の条件①～③を満たしている	2 正答の条件②を満たしていない	3 正答の条件③を満たしていない	4 正答の条件①を満たしていない	9 その他の解答	0 無解答
反応率	17.3%	0.3%	7.1%	20.8%	52.1%	2.3%

○ 正答率は 17.3% であった。

○ 主な誤答は、課題の解決策は提案できているが、参考にすべき意見すべてを選択できていない解答であった。理由としては、問われている内容と選択肢の内容を照らし合わせることなく、自分が提案する解決策に関連する課題のみを選択してしまっていたことが考えられる。

○ 目的に沿った話し合いをすることや必要な情報を整理しながら話し合いを進めることなど、学級活動や各教科での話し合いの場でも生かせるよう指導することが重要である。

○ 復習シートとの関連

【出典】 R1 復習シート

【学年・単元】 中学校1年生 話すこと・聞くこと

【参考 URL】 <https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyuu/images/fukusyuusi-to-chukokugo.html>

○ 指導上のポイント

目的に沿って、集めた情報を整理しながら話し合いをするための指導

〈学習目標〉話題や展開をとらえながら話し合おう

何のために話し合っているか、話し合いがどこに向かっているかを常に意識し、意見を整理しながら話し合しましょう。



主体的、対話的で深い学びの視点



来月、小学校6年生との交流会が行われます。中学校の楽しさを小学生に知ってもらうためには、何をすればよいか話し合しましょう。



先日、6年生に回答してもらった中学校についてのアンケート結果によると、テストについて不安に思っている人が8割と多いことがわかります。入学前に少しでも不安を取り除いてあげることが必要だと思うので、テストについての説明とアドバイスをするのはどうですか。



不安を取り除くことも大切だと思いますが、入学を楽しみだと思ってもらうことの方が大切だと思います。学校行事や部活動を楽しみにしている人がそれぞれ9割を超えています。どちらも私たちの学校が盛んに取り組んでいることなので、自信を持って紹介できると思います。

中学校の楽しさを知ってもらうという目的からそれないように、どうすれば中学校の楽しさを小学生に知ってもらえそうか、考えてみましょう。



6年生が楽しみだと思っていることを紹介すべきだと思います。学校全体で力を入れている合唱を披露するのはどうでしょうか。中学校の合唱のレベルの高さだけでなく、学校行事の一つである合唱祭についても知ってもらえると思います。



学校の特色を紹介するのは賛成です。ですが、合唱をする機会が多いとは言えません。私は、合唱と同じように力を入れていて、みんなが毎日活動することになる部活動の紹介をすればよいと思います。どんな部活動があるか、気になっている小学生は多いと思うからです。各部から部の目標や活動内容について2分程度で紹介をしてもらうのはどうですか。



私も部活動について紹介するのがいいと思います。ただ、話を聞いているだけでは、楽しさは伝わらないのではないかと思います。楽しさを知ってもらうためには、私たちが実演をしたり、小学生が体験できる機会を設けたりするなどの工夫が必要だと考えます。



今出た意見なら、小学生に中学校の楽しさをより詳しく伝えることができそうですね。



小中連携の視点

指導事項の系統性（学習指導要領解説 国語編 付録4 教科の目標、各学年の目標及び内容の系統表〔思考力、判断力、表現力等〕A話すこと・聞くこと）を把握し、自分の意見と比較しながら聞き、相手の意見を受けて発言することや、意見を整理しながら話を進め、話題が逸れたときには元の話に戻すことなどを意図的に指導することで、話題や展開を捉えた効果的な話し合いが期待できます。

○ 指導上のポイントにおけるICT端末の活用について

話し合いの様子を動画で記録し、振り返りに活用する。

- ・話し合いの目的や話題に沿った発言ができているか
- ・それぞれの意見の共通点や相違点に着目し、意見を整理して進められているか
- ・複数の意見を結び付けて意見をまとめることができているか

等の視点を提示し、話し合いの様子を見返しながら良い点や改善点を見つける。



○ 調査問題

15 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

この話は、侍から逃げて出家しようとした主人公が、せつかくつけてもらった「夕春」という名を捨てて、わざわざ滑稽な名前に変えてしまった笑い話である。

「今は男もならず」とて、心もすすまぬ道心をおこしければ、和尚すなはち髪を剃りて、戒名を夕春とつけられたり。兵太郎心に思ふやう、

「この戒名の訓み声のきたなさま」とて、和尚にまありて、「とかく此戒名をかへて給はれ」といふ。和尚のたまはく、「春宵一刻値千金」といふ。和尚の心によりて付けたる名なり。夕春、

ゆふべの春と訓む。これ、まことにやさしき名なり」と仰せらるるに、「いや、それがし訓みてみれば、ことの外きたなく、をかしく訓め待べり」と申す。「さて何と訓みたるぞ」とのたまへば、「夕春は、Aと訓む」と申す。

「それはいかなる故ぞ」と問はるれば、「七夕の夕の字、春日の春の字なり。とかく此名しかるべからず」とて、みづから浮世坊とぞ付きにける。

注1 春宵一刻値千金…春の夜の一刻は千金に値するほどすばらしい、という意。
中国の詩人、蘇軾の『春夜』
注2 浮世坊…俗っぽい僧侶の意。

(2) 「夕春は、Aと訓む」とありますが、兵太郎は和尚にもらった戒名を、何と読んだのでしょうか。

次の に入る言葉をひらがなで入力しなさい。

兵太郎は、「夕春」という名前を と読んだ。

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】 古文の内容を読み取る。

【出題の趣旨】 古文の内容を読み取る。

○ 誤答分析

解答類型	①正答 「ばたかす」と解答	9 その他の解答	0 無解答
反応率	41.3%	53.7%	5.0%

- 正答率は41.3%であった。「七夕のばたの字、春日のかすの字」から、「夕春」の読み方を読み取り、解答するものである。
- 誤答としては「ゆうはる」「ゆふべのはる」が多く、本文に書いてある読み方をそのまま書き抜いたと考えられる。リード文には「わざわざ滑稽な名前に変えてしまったという笑い話」とあるが、そこに気づかなかつたり、本文を最後まで読まずに、解答したりしたことが要因だと考えられる。
- 授業においては、語句の意味を確認したり、古文を現代語に訳したりするだけでなく、話のオチやおもしろさに気づかせ、現代と変わらない人間の生き様や考え方にも触れさせることが重要である。

○ 復習シートとの関連

【出典】 R2 復習シート 【学年・単元】 中学校3年生・言語事項

【参考 URL】 <https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/198939/r2c3koku-gengo-q1.pdf>

○ 指導上のポイント

話の面白さに気づき、兼好法師のものの見方や考え方から、今後の実生活において教訓となる考えをもつことについての指導

【目標】古文の教訓を理解し、実生活に生かそう。



この話のおもしろさはどこにあるだろう？

私は①のところに注目したよ。「石清水を拝む」という本来の目的を果たしてないのに、本人はそれに気づいていないのが、この法師の性格を表しているようでおもしろいな。



法師の失敗はどうすれば防げたのかな？

②のところ、気になったなら聞けばよかったのに…。



この話の教訓を、自分たちの生活に生かしてみよう。

1人で行動して、思い込みから失敗したことがあるよ。

何か始めるときは、詳しい人に聞くのがいいね！



【生徒の興味・関心を広げる】
教科書以外の章段や、作品紹介、調べ学習などで生徒の興味を深める。
○『宇治拾遺物語』 ○『今昔物語』
○『十訓抄』 ○『方丈記』

『徒然草』 兼好法師
仁和寺にある法師、年寄るまで石清水を
拝まざりければ、心うく覚えて、あるとき
思ひたちて、ただ一人、徒歩より詣でけり。
極楽寺・高良などを拝みて、①かばかりと
心得て帰りにけり。
さて、かたへの人にあひて、「年ごろ思ひ
つること、果たしはべりぬ。聞きしにも過
ぎて、尊くこそおはしけれ。そも、参りた
る人ごとに山へ登りしは、何事かありけん、
②ゆかしかりしかど、神へ参るこそ本意な
れと思ひて、山までは見ず。」とぞ言ひける。
少しのことにも、先達はあらまほしきこ
となり。



主体的、対話的で
深い学びの視点。

古文の内容を、今を生きる私たちに置き換えて考え、身近なものとして捉えることで、生徒が古典の世界に親しみ、「生きて働く知識及び技能の習得」につなげます。また、交流を通して古典に表れたものの見方や考え方に触れ、思考を深めることが重要です。



小中連携
の視点

暗唱や読み聞かせなどで古典に触れている生徒も多くいます。既存の知識を確認したり、継続して暗唱に取り組んだり、古典の世界に気軽に親しめるような機会を増やします。

○ 指導上のポイントにおけるICT端末の活用について

教科書以外の章段から、今の人生に生きる教訓を紹介しよう

- 1 『徒然草』の他の章段を調べる。
- 2 教訓を押さえ、友達に紹介したい章段を決める。
- 3 分かりやすくスライド等にまとめ、紹介文を考える。
- 4 グループやクラスで発表する。
- 5 友人の発表を聞き、現代との共通点や相違点に気づき、日常生活に生かす。



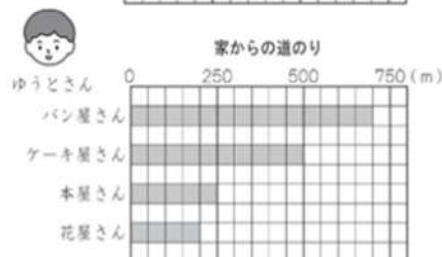
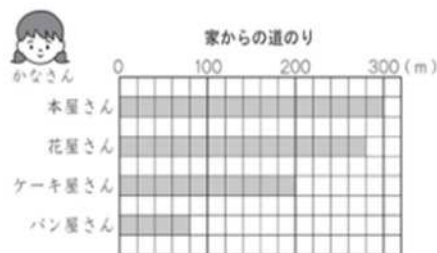
○ 調査問題

9 次の問題に答えましょう。

(2) かなさんとゆうとさんは、それぞれの家からいろいろな店までの道のりを調べて、ぼうグラフに表しました。2つのグラフをくらべて、どんなことがいえるか考えます。

かなさんの家からケーキ屋さんまでの道のりと、ゆうとさんの家からケーキ屋さんまでの道のりは、同じです。

この考えは正しいですか、正しくないですか。次の解答らんの中からえらびましょう。また、そう考えたわけを、言葉や数を使って入力しましょう。



○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】 目盛りのつけ方が異なる2つの棒グラフから、資料の特徴を読み取る。

【出題の趣旨】 目盛りのつけ方が異なる2つの棒グラフを比較し、数量間の関係について考えることができる。

○ 誤答分析

解答 類型	1 ①②③ を満たす	2 ②③ を満たす	3 ①② を満たす	4 ①③ を満たす	5 ①のみ	6 ②のみ	7 ③のみ	9 左記以外	0 無解答
反応率	17.2%	0.2%	0.9%	1.8%	54.3%	0.6%	1.8%	14.1%	9.1%

(正答の条件) ①「正しくない」を選択している。

②「かなさんの家からケーキ屋さんまでの道のりは200m」であることを説明している。

③「ゆうとさんの家からケーキ屋さんまでの道のりは500m」であることを説明している。

- 正答率は17.2%であった。
- 主な誤答は「正しくない」を選択しているが、理由を正しく記述できていないもので54.3%であった。一目盛りの大きさが違うグラフはそれぞれ正しく読み取ることにはできているが、グラフの値を比べてその違いを述べる際に、一目盛りの大きさに着目できていないと考えられる。
- 他には「正しい」を選択している児童もおり、一目盛りの大きさを正しく読み取れていなかったり、全体の量を読み取れていなかったりすることが原因と考えられる。

○ 復習シートとの関連

【出典】 R6 復習シート




【学年・単元】 小学校4年生 データの活用

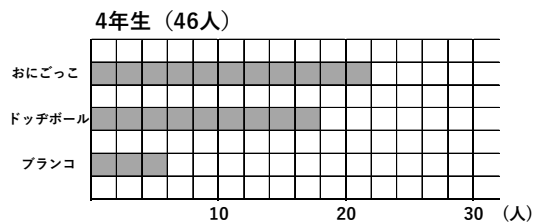
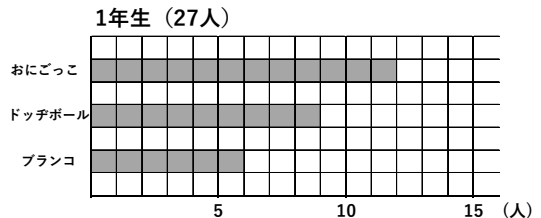
【参考 URL】 <https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/198937/r6s4sanq.pdf>

○ 指導上のポイント


目盛りのつけ方が違う2つのグラフを比べて数量関係をとらえる指導


問題 次のグラフは1年生（27人）と4年生（46人）で好きな遊びを調べて、人数を表したグラフです。次の3人の言っていることは正しいですか。正しくないですか。理由も説明しましょう。


- ①  1年生、4年生ともおにごっこが好きな人がいちばん多いよ。
- ②  1年生と4年生では、ドッチボールが好きな人の数はどちらの学年も同じだね。
- ③  1年生の方が、ブランコが好きな人の数が多いよ。





《2つの棒グラフを見比べながら、話し合う活動》


 : ①②③のうち、正しい意見はどれかな。


 : 1年生も4年生もほかの遊びと比べて棒グラフが一番長いから①は正しいです。


 : ②は棒の長さが同じだから、人数も同じと言えるかな？


 : 目盛りの大きさが違います。1目盛り1人と2人で違います。

 : 1年生は9人だけど、4年生は18人だから正しくないと思います。

 : ③はどうか。

 : 棒の長さは違うけど、1年生も4年生も6人だから同じ人数で、③は正しくないです。

 : ①は棒の長さで比べられるのに、②③では棒の長さで比べられないのはどうしてだろう。

 : 1目盛りの大きさがちがうからです。 上のグラフでは1目盛りは1人だけど下のグラフは2人になっています。



着目すべき点をはっきりさせ、理由を述べたくなるような発問を工夫する。(言語活動の充実)



中学校
の視点

3年の棒グラフの学習は、4年での折れ線グラフ、5年での割合のグラフ、6年でのヒストグラムを用いた「データの整理」の学習へとつながっていく。中学校でも取り扱う内容であるので、データ整理の基礎基本としてしっかり定着させておきたい。

○ 指導上のポイントにおけるICT端末の活用について



デジタル教科書を大型画面に映し、グラフを指し示しながら説明する活動をすることで、図を活用して自分の言葉で説明する力を高める。

○ 調査問題

1 次の問題に答えましょう。

(4) $3 + 5 \times (6 - 2)$ を計算しましょう。

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】 () を使った計算をする。

【出題の趣旨】 四則の混合した式や () を用いた式について正しく計算できる。

○ 誤答分析

解答類型	① 正答 23と解答	9 正答以外の解答	0 無解答
反応率	37.8%	60.9%	1.3%

- 正答率は37.8%であった。
- 主な誤答は、32であった。理由としては、 $3 + 5$ と $(6 - 2)$ を先に計算し、 $8 \times 4 = 32$ と計算したことが考えられる。
- 計算の順序についてのきまりが十分に理解できていないことや、途中式を丁寧に書かなかったことが、加法を先に計算してしまった原因として考えられる。

○ 復習シートとの関連

【出典】R5 復習シート

【学年・単元】小学校5年生 数と計算

【参考URL】<https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/198937/r6s5sanq.pdf>

○ 指導上のポイント

四則演算のきまりを理解し、丁寧に計算を進める力を身につける指導

- 計算の順序を確認する。
 - ・左から順に計算する。
 - ・() のある式は、() の中を先に計算する。
 - ・ \times と \div は、 $+$ と $-$ より先に計算する。
- 途中式を書き、丁寧に計算を進める。

【例】

$$\begin{aligned}
 7 - (8 - 2 \times 3) &= 7 - (8 - 6) && \leftarrow \text{①のみを計算} \\
 &= 7 - 2 && \leftarrow \text{②のみを計算} \\
 &= 5 && \leftarrow \text{③のみを計算}
 \end{aligned}$$

「一つの行で、一つの計算。」と徹底すると、間違いが起こりにくいですね。

- 間違いを見つけ、どんな間違いなのかを説明する活動を取り入れる。



主体的、対話的で深い学びの視点。

【誤答例】 $(28 - 7 \times 2) \div 7 = (21 \times 2) \div 7$
 $= 42 \div 7$
 $= 6$

上の計算は正しいでしょうか？

答えは6と出たけど…。 $28 - 7$ を先に計算してよいのかな？

この考え方は、間違っているね。 $28 - 7$ を先に計算しているけど、ひき算よりもかけ算を先に計算するきまりなので、 7×2 を先に計算しなければ、正しい答えにならないね。

- 中学校の文字の計算についての学習との系統性をふまえて指導する。

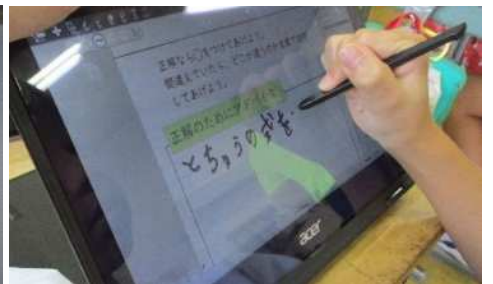
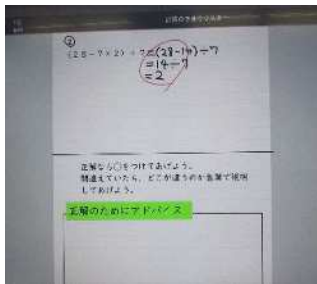
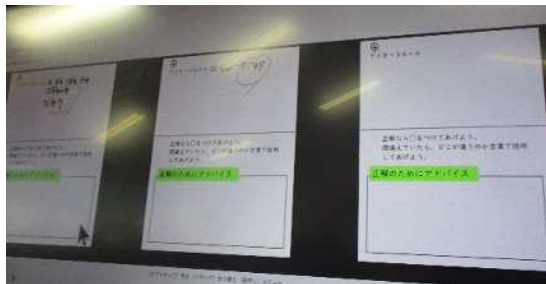


- ・ $a + b$ たし算の表し方 ・ $a - b$ 引き算の表し方
- ・ ab かけ算の表し方 ・ $\frac{b}{a}$ わり算の表し方

一つの項として考えるため、演算記号を使わない。
 → 先に計算することとつながる。

○ 指導上のポイントにおけるICT端末の活用について

- ・ICT端末に書き込み、大型テレビで共有することで、クラスで計算の仕方を振り返られるようにする。
- ・友達のページを開いて、児童同士で丸つけをしたり、アドバイスを書き込んだりする等の活動も設定する。



○ 調査問題

7 次の問題に答えましょう。

(3) 次の表は、3つのうさぎ小屋の面積とうさぎの数を調べたものです。

	面積 (m ²)	うさぎの数 (ひき)
A	6	4
B	12	7
C	16	12

A、B、C、3つのうさぎ小屋をこんでいる順番にならべたものを、次の解答らんの中から1つ選びましょう。

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】 単位量当たりの大きさから、混んでいる順番にならべたものを選ぶ。

【出題の趣旨】 単位量当たりの大きさについて理解している。

○ 誤答分析

解答類型	1 A→C→B と解答	2 B→A→C と解答	3 正答 C→A→B と解答	4 C→B→A と解答	9 その他の 解答	0 無解答
反応率	24.6%	24.0%	29.6%	12.9%	0.0%	8.9%

- 正答率は29.6%であった。
- 主な誤答は、「A→C→B」と「B→A→C」であった。理由としては「A→C→B」は、面積－うさぎの数を求めて、その差の小さい順で並べたということが考えられる。また、「B→A→C」は、1 m²当たりの量か1匹当たりの量かどちらで求めたものなのかが十分に理解できずに解答していると考えられる。
- 「C→B→A」の解答は、うさぎの数だけで比べたと考えられる。

○ 復習シートとの関連

【出典】 R4 復習シート 【学年・単元】 小学校6年生 変化と関係

【参考 URL】 <https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/198937/r4s6san-henka-q1.pdf>

○ 指導上のポイント

単位量当たりの大きさの意味理解を深める指導

問題：AとBのにわとり小屋があります。それぞれ小屋の面積とその中にいるにわたりの数は、右の表のようになっています。

	面積 (m ²)	数 (羽)
A	7	10
B	6	7



AとBのにわとり小屋は、どちらが混んでいるといえますか？

① 面積と数がちがうから、面積をそろえて比べてみたらどうかな？例えば、1 m²当たりのにわたりの数で比べたら、Aは、 $10 \div 7 = 1.428\dots$ だから、約1.4羽になるね。Bは、 $7 \div 6 = 1.166\dots$ だから、約1.2羽だね。Aの方が数が大きいから、Aの方が混んでいるといえるね。



② 1羽当たりの面積で比べることができるね。Aは、 $7 \div 10 = 0.7$ だから、0.7 m²だね。Bは、 $6 \div 7 = 0.857\dots$ だから、約0.9 m²だね。Bの方が数が大きいから、Bの方が混んでいるといえるのかな。

③ なるほど。①と②はそのように考えたのですね。でも、①と②では、混んでいる方の小屋が変わってきますね。なぜでしょうか？

④ 1 m²当たりで比べるときは、にわたりの数が多い方が混んでいるけど、1羽当たりの数で比べるときは、1羽当たりの面積で比べているんだから、数が小さい方が混んでいるってことじゃないのかな？

⑤ ④についてももう少し説明してくれる人はいますか？

⑥ ②の求め方は、面積÷数(羽)なので、1羽当たりのにわたりの面積…という意味になります。だから、0.7 m²と0.9 m²だと、0.7 m²の方が混んでいるといえます。面積をそろえて人数を比べるといったように、一方をそろえてもう一方の大きさを比べるとよいと思います。

児童のつまずきが予想される場所では立ち止まり、問い返すことが大切である。

小中連携
の視点

第5学年のC変化と関係「異種の二つの量の割合（速さなど単位量当たりの大きさ）」につながっていくので、児童の理解の定着が一層図られる。

○ 指導上のポイントにおけるICT端末の活用について



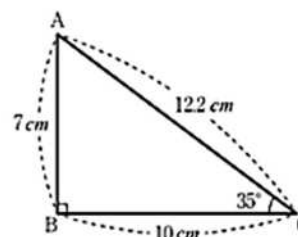
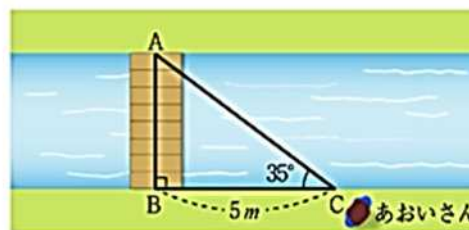
ICT端末を活用することにより、図や式を関連付ける指導がしやすくなります。また、友達の考えを一斉に確認することもでき、児童はそこからいろいろな思考を働かせます。

○ 調査問題

4 次の問いに答えなさい。

(3) 右上の図は、あおいさんが学校の近くにある川にかかっている橋から5mはなれたところに立って、橋の向こう岸を見ている様子を表したものです。ここから、直角三角形ABCの $\frac{1}{50}$ の縮図をかき、各辺の長さを測ったところ、右下の図のようになりました。

このとき、実際の川の幅が何mであるか求めなさい。



○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】縮図から求めた実際の川幅を求める。

【出題の趣旨】縮図を利用して、実際には測定しにくい長さを求めることができる。

○ 誤答分析

解答類型	1 正答 3.5 (m) と解答	2 14 (m) と解答	9 上記以外の解答	0 無解答
反応率	27.3%	2.3%	52.3%	18.0%

- 正答率は27.3%であった。
- 主な誤答は、「350m」もしくは「35m」であった。理由としては、 $\frac{1}{50}$ の縮図ということから、7cmを50倍し、単位計算をせずに解答した。あるいは、その単位計算の1m=100cmということを理解していなかったということが考えられる。縮図の原理を理解することや見直しをもって問題に取り組むことが不十分である。
- 無解答率の多さは、問題の情報量が多く、理解しきれなかったことが原因だと考えられる。
- 図を見たときにBCの長さが5mであることに気づくと、ABの長さが35mにはならないことに気づくことができる。日常生活の中で量感を養う必要がある。

○ 復習シートとの関連

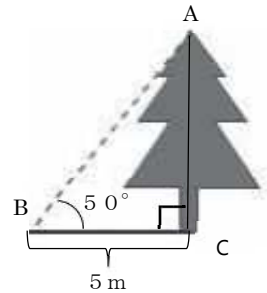
【出典】R6 復習シート 【学年・単元】中学校1年生 図形

【参考 URL】<https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/198940/r6c1suuq.pdf>

○ 指導上のポイント

見通しをもって問題に取り組み、縮図を活用できるようにする指導

問題 右の図のように、木から5 mかげが伸びています。その影の先端Bから、木の上はしAまでの長さを表したものです。この木の実際の高さは何mですか。



【直接測ることができない長さを、縮図をかいて求める】

(1) 課題をとらえ、解決の見通しをもつ。



どのような手順で求めたらよいでしょうか。

高さは大体どのくらいになりそうですか。

見当をつけ、縮図をかいて求めます。



見当をつけることで、大体の長さをイメージすることができます。

かげが5 mなので、5 mよりは高そう。

かげが5 mなので、10 mよりは低そうです。



(2) 手順を確かめる。(縮尺を決める→縮図をかく→縮図上の長さをはかる→実際の長さを求める)

(3) 縮尺を決め、縮図をかき、実際の高さを求める。



縮尺はいくつにするとよいですか。

$\frac{1}{100}$ の縮図にすると、よさそうです。

どうしてですか。

計算がしやすくなるからです。

小中学校の視点

拡大図や縮図の意味や性質を理解したり、正しく作図したりすることで、中学校の相似の素地になる。

(4) それぞれの求め方を検討し、まとめる。※ICT端末の活用



実際の高さは何mになりましたか。

Aさん：6 m Bさん：6.1 m Cさん：600 m

理由は・・・



そう思った理由を近くの人と伝え合いましょう。

※見当をつけたことを想起させ、よさを実感させる。



主観的、対話的で深い学びの視点

誤答も含め、複数の意見を取り上げ、比較・検討する場面を設定する。

○ 指導上のポイントにおけるICT端末の活用について



自分の考えを書いたノートを撮影し、学習支援ツールを使い、考えを共有する。

○ 調査問題

3 次の問いに答えなさい。

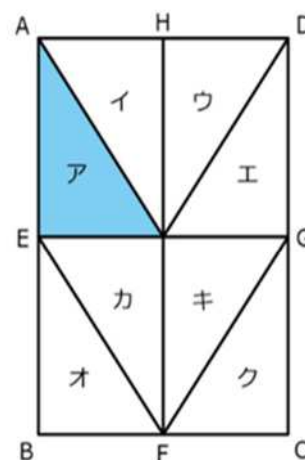
(2) 右の図で、四角形ABCDは長方形で、E、F、G、Hは、それぞれ辺AB、辺BC、辺CD、辺DAの中点です。

アの三角形を、次の①～③のどの移動でも重ねることができない三角形を
あとの解答欄の中からすべて選びなさい。

- ① 1回の対称移動
- ② 1回の平行移動
- ③ 1回の対称移動をしたあとに1回の平行移動

〈解答欄〉

イ ウ エ オ カ キ ク



○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】 合同な三角形を並べた図で、一つの三角形を対称移動と平行移動、それらを組み合わせ合わせた移動で、重ならない三角形として正しいものをすべて選ぶ。

【出題の趣旨】 対称移動と平行移動について理解している。

○ 誤答分析

解答類型	① 正答 イとカを解答	2 イのみ解答	3 カのみ解答	4 イとウ以外	5 カとイ以外	9 上記以外	0 無解答
反応率	7.6%	0.8%	1.0%	8.1%	1.2%	70.0%	1.3%

○ 正答率は7.6%であった。

○ 主な誤答は、解答類型9の70.0%であった。

理由としては、アの三角形を直線HFに対して対称移動させることができるが、直線EGに対して対称移動をさせることができてないということが考えられる。なお、70.0%の誤答の中には、イ、カ、ウ、キの4つを選んだ解答は、32.7%であった。

○ 復習シートとの関連

【出典】 R3 復習シート 【学年・単元】 中学校1年生 図形

【参考URL】 <https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/198940/r3c1suu-zukei-q.pdf>

○ 指導上のポイント

数学的な見方・考え方を働かせる指導

(平行移動、対称移動、回転移動の授業が終わった後の授業を想定しています。)

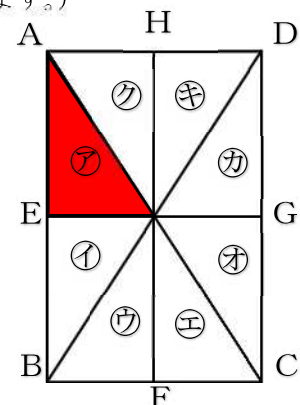
※言葉を変えれば図形の移動の導入でも実施可能。

問題 次の図で四角形A B C Dは長方形です。

三角形⑦を、次の(1)～(3)のどの移動でも重ねることができない三角形を答えなさい。

- (1) 1回の平行移動。
- (2) 1回の対称移動。
- (3) 1回の対称移動をしたあとに1回の平行移動。

解答 ⑦⑧



◆これから取り組む問題について、生徒がどの程度の知識を持っているかを確認する。



平行移動とはどんな移動ですか。



一定の方向に、一定の距離だけ動かす移動です。



対称移動とはどんな移動ですか。



ある直線を折り目として折り返す移動です。折り目を対称の軸といいます。



対称の軸を探すにあたってポイントはなんだと思いますか。



縦の軸だけでなく、横や斜めにも対称の軸があるということです。

◆今回の(3)のような問題に限らず、日々の授業の中で「うまくいく場合」と「うまくいかない場合」を考えさせる意図的な発問をしていくことが生徒の思考力や判断力を高める。



重ならない場所を考えるとときにはどのような考え方が必要ですか。



うまく重なるものをすべて考えたり、見当をつけて移動させたりすることです。



なぜ重ならないと思いますか。



算数では「線対称な図形」「点対称な図形」等を学習している。学びの系統性を意識した授業展開や発問が、生徒の興味や関心を高め、主体的に学びに向かう姿勢が生まれる。

○ 指導上のポイントにおけるICT端末の活用について

学習支援ソフト (GeoGebra) 図形の移動 (麻の葉)

【単元の導入】

- ・視覚的な理解促進を図るとともに、自由に操作させる時間を確保することで、学習意欲を高める。

【単元のまとめ】

- ・既習の学習 (移動) を確認する。



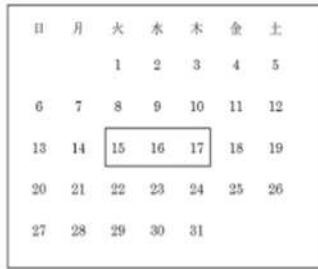
○ 調査問題

6 みさきさんは、図1のように、横に囲んだ3つのカレンダーの数の和について、次のような予想をし、この予想が正しいことを下のように説明しました。

みさきさんの予想

図1で、横に囲んだ3つの数の和は、まん中の数の3倍になっている。このことは、横に並んだほかの3つの数でも成り立つ。

図1 カレンダー



みさきさんの説明

まん中の数を n とすると、横に並んだ3つの数は、 $n-1$ 、 n 、 $n+1$ と表される。だから、その和は、 $(n-1)+n+(n+1)=3n$
 $3 \times$ (まん中の数) となるので、横に並んだ3つの数の和は、まん中の数の3倍になる。

一方、けんたさんは、図2のように、十字に囲んだ5つのカレンダーの数の和について、次のような予想をし、この予想が正しいことを下のように説明しました。

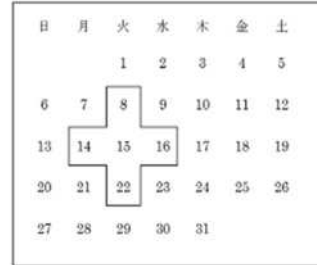
けんたさんの予想

図2で、十字に囲んだ5つの数の和は、まん中の数の5倍になっている。このことは、十字に並んだほかの5つの数でも成り立つ。

けんたさんの説明

まん中の数を n とすると、十字に並んだ5つの数は、

図2 カレンダー



けんたさんの予想の中の□にあてはまる数値を次の解答欄の中から1つ選び、みさきさんの説明を参考にして、けんたさんの説明を完成させなさい。

(解答欄)

3倍 5倍

けんたさんの説明

※たとえば、 n は「ナシツトル」と入力してもよいし、 m は「へいほうめえとる」と入力してもよい。
 ※分数は「2/3」や「さんぶんのに」と入力してもよい。

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】 カレンダーの数の和について成り立つ性質を説明する。

【出題の趣旨】 文字を用いて表現したり、目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして予想が成り立つことを説明することができる。

○ 誤答分析

(正答の条件) 5倍を選択し、次の(a)、(b)の両方を記述しているもの。

(a) 5つの数について、 $n-7$ 、 $n-1$ 、 n 、 $n+1$ 、 $n+7$ で表されること

(b) 5つの数の和が、 $5n$ であること

解答 類型	① 正答 5倍を選択 (a)(b)の 両方を記 述してい る。	2 5倍を選択 (a)のみ 記述し ている。	3 5倍を選択 (b)の み記述 してい る。	4 5倍を選択 左記以外 の解答	5 5倍を選択 無解答	6 3倍を選択	9 左記以外 の解答	0 無解答
反応率	18.4%	1.8%	0.2%	27.8%	15.6%	16.0%	3.5%	16.8%

○ 正答率は18.4%であった。

○ 主な誤答は5倍を選択しているが(a) 5つの数が「 $n-7$ 、 $n-1$ 、 n 、 $n+1$ 、 $n+7$ 」、または(b) 5つの数の和が「 $5n$ 」以外の記述であった。理由としては、5つの数を誤って記述していることが考えられる。

○ 復習シートとの関連

【出典】 R5 復習シート 【学年・単元】 中学校3年生 数と式 1 (8) レベル9

【参考 URL】 https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/198940/r5c3sansuu_q_1suutosiki.pdf

○ 指導上のポイント

カレンダーにおける数の性質を見だし説明をさせる指導

問題 カレンダーの数をひとまとまりになるように囲んでみましょう。囲んだ数の和には、どんな性質があるでしょうか。

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31



まずは、3つか4つの数をひとまとまりになるように自由に囲んでみましょう。

横一直線に囲んでみようかな。



斜めに囲むのもいいか



4つの数ならどうだろう。



$6+7+8=21$ 。他のところだと...



$7+15+23=45$ 。他のところだと...



$5+6+12+13=36$ 。他のところだと...



【生徒から出た囲い方を取り上げてそれぞれの性質を見だし】

日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
				1	2	3					1	2	3						1	2	3
4	5	6	7	8	9	10	4	5	6	7	8	9	10	4	5	6	7	8	9	10	
11	12	13	14	15	16	17	11	12	13	14	15	16	17	11	12	13	14	15	16	17	
18	19	20	21	22	23	24	18	19	20	21	22	23	24	18	19	20	21	22	23	24	
25	26	27	28	29	30	31	25	26	27	28	29	30	31	25	26	27	28	29	30	31	

どんな性質があるのでしょうか。



真ん中の数の3の倍数になりそう。



真ん中の数の3の倍数になりそう。



4の倍数になりそう。



その性質がいつでも成り立つことを説明しましょう。



主体的、対話的で深い学びの視点

様々な囲い方を取り上げてその性質を説明させることで、数の性質の楽しさを味わうことができる。一方で文字を使って説明する考え方が共通であることに気づくことで、統合的な考えが育まれる。

算数における九九表などを取り上げることで、数の規則性に対する興味や関心が向上し、主体的に学びに向かう姿勢が育まれる。

小中連携の視点

○ 指導上のポイントにおけるICT端末の活用について

- カレンダーの数をどのように囲んだのかを、ICT 端末を使うことで、クラス全員で共有することができる。
- 共有したものから、ピックアップして全体の課題を見だしすることも可能である。
- 証明の方法も共有することで、解決までの道筋や論理的な説明の仕方について、友達の考えを参考に、自分の考えを更に深めることができる。



- デジタル教科書を用いることで、生徒は前学年までの既習内容との繋がりを適宜確認することができる。

○ 調査問題

13 (2) あなたは、自分が参加しているボランティア活動について、校内の英語ニュースで紹介する英文を書いています。【メモ】をもとに、下にある英文が完成するように、に適する英語を入力しなさい。

【メモ】

私が参加しているボランティア活動

- ◆ 場所：老人ホーム
- ◆ 活動日：毎週土曜日
- ◆ 先週はお年寄りのためにピアノを演奏したり、話をしたりした

・ Last week, for old people. I also talked with them.

<解答欄>

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】 与えられた情報に基づいて、人物を説明する英語を書く

【出題の趣旨】 与えられた情報に基づいて、人物の情報を正確に書くことができる

○ 誤答分析

解答類型	① 正答 I played the piano	9 正答以外の解答	0 無解答
反応率	7.3%	81.3%	11.4%

- 正答率は7.3%である。
- 主な誤答は、play や piano など、単語のみで答えてしまい、主語・動詞・目的語に誤りが見られた。誤答の原因としては、の中に1語しか書くことができないと判断してしまったことが考えられる。また、I play the piano や play the piano など動詞の時制に誤りがあるものや、主語が欠落している誤答も多く見られた。どちらも現在形で解答している誤りが多く、【メモ】の「先週」という言葉や、英文の“Last week”から過去形の表現に繋げることができていないと考えられる。
- 無解答率は11.4%である。無解答の原因は、【メモ】のどの部分が英文に当たるのかを判断できず、諦めてしまったことだと考えられる。日々の学習の中で、メモの取り方や、文脈に応じて理解した文法事項を正しく活用したり、書いた英文が相手に正しく伝わるかどうかについて生徒自身が読み直して誤りを修正するなどの指導を充実させることが大切だと考えられる。

○ 復習シートとの関連

【出典】 R6 復習シート

【学年・単元】 中学校2年 書くこと

【参考 URL】 <https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/198941/r6c2engq.pdf>

○ 指導上のポイント

インタビュー・マッピングを活用し、情報を整理して英文を書く指導

インタビュー・マッピングとは、相手から聞いた情報等について、情報を整理し、単語や短い語句で関連付けながらメモ（マッピング）を取る活動である。身近な話題についてやり取りした相手の情報のマッピングから、英文を書くことに繋げることで、表現力を高めることができると考えられる。

- ① ペアでテーマについて2分間やり取りをしながら、マッピングに情報をまとめる。

What sport does your sister like, Kenta?

She likes basketball.

Is she a member of the basketball team?

Yes, she is.

Does she watch basketball games?

Yes, she watches them on YouTube.

- ② ①でマッピングに英語で書くことができなかった単語や表現を調べ、書き足す。

sister — バasketボール — member
like **basketball**
— YouTube で見る
watch

バスケットボールは英語ではこう書くのか…YouTubeを「見る」は“watch”で表現することができるんだ💡

- ③ マッピングをもとに相手から聞いた情報を英文で書く。

Kenta has a sister.

She likes basketball.

She's on the basketball team.

She watches basketball games on YouTube.

- ④ 書いた英文を生徒同士で読み合い、より良い表現になるようアドバイスをし合う。

主語が She で現在形の時は watch の時は、s ではなくて es を付けるよ。

そうだった！ありがとう。

- ⑤ 代表生徒（2～3人）の内容を全体で共有する。その英文を活用し、Dictation を行うこともできる。

小中連携
の視点

小学校での書くこと目標（学習指導要領解説 外国語編 付録4参照）に書かれている土台があることを踏まえ、中学校では場面や状況から時制等を適切に判断し、正確な文を書くことができるように指導をしていく。



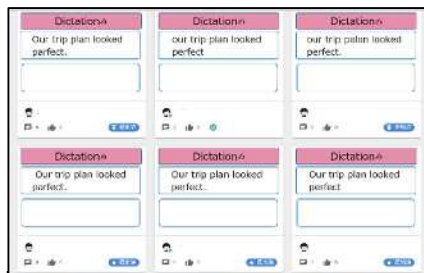
主体的、対話的で深い学びの視点

英語で話すことはできても、書くことができなかった単語や英文を調べて書く活動を継続することで、書くことの表現の幅を広げていくことができる。メモの取り方や正確に英文に書き直す活動を通して、自己の学習を振り返ったり、学びの変容を実感したりすることが主体的・対話的で深い学びに繋がる。

○ 指導上のポイントにおけるICT端末の活用について



学習者用デジタル教科書を活用し、登場人物の会話文等の音声を取り、上記の活動に取り組むことができる。再生速度や再生回数等、各自のペースで取り組むことで、習熟度に応じた学習ができる。



学習支援ソフトを活用し、一人一台端末にインタビュー・マッピングや Dictation 等の教材を配布し、個人で活動に取り組んだ後、全体で画面共有することができる。他の生徒の取組から、好事例をフィードバックすることで、自分の取組を見直し、学びを深めることができる。



○ 調査問題

*①～⑥の各イラストが
3秒ずつ表示される

○ 調査問題の趣旨・内容

【問題の概要】 日常的な話題について、相手に依頼する文を作る

【出題の趣旨】 日常的な話題について、相手に依頼する表現を正確に書くことができる

○ 誤答分析

解答類型	1 正答 Can you go~?	9 正答以外の解答	0 無解答
反応率	23.0%	58.0%	19.0%

- 本問題は上記の①～⑥のイラストが順番に画面に映し出され、④の空欄に相手に依頼する適切な表現を書くものである。各イラストは3秒ずつ表示される。
- 正答率は23.0%であった。親子の会話をもとに、空欄に入る適切な表現を答える問題である。会話の流れを理解し、相手に依頼する表現を正確に答えることが求められる。
- 主な誤答は、Do you~? や Are you~?など、疑問文にはなっているが、相手に依頼する表現を正確に書くことができていないものである。また、やり取りの内容を理解していないため、eggsなど会話中に出てきた単語を答えたり、イラストに描かれているものを答えたりする生徒がいた。
- 無解答率は19.0%であった。無解答の主な原因としては、話の内容を理解することができず、適切な表現を書くことができなかつたと考えられる。日頃の言語活動において、継続したやり取りの中で適切な返答をさせたり、コミュニケーションを行う目的・場面・状況を設定した上で、それに応じた発話をさせたりすることが求められる。

○ 復習シートとの関連

【出典】 R4 復習シート 2 【学年・単元】 中学校3年 聞くこと *会話の流れを掴む
【URL】 <https://www.pref.saitama.lg.jp/documents/198941/r4c3eigo-kiku-q1.pdf>

○ 指導上のポイント

Small Talk・Interactive Teacher Talk の工夫 日常的な話題についてやり取りする力を身に付ける指導

やり取りの中で自分のことについて伝えたり、関心のあることについて質問をしたりするなど、やり取りを継続・発展させる力を身に付けさせることが大切である。そこで、Small Talk を工夫して、やり取りを継続する力を身に付けることを目指す。

★今回は、「What's your favorite place in your school?」という話題で Small Talk で行う。

接続詞 because, や when を前時に学んでいる。

授業の最初 Small Talk① 通常の Small Talk を行う。

◎授業の最後に再度同じテーマで Small Talk を行うことを伝える。



Small Talk は小学校でも行っています。
連携を意識して継続しましょう。

言語活動 コミュニケーションを行う目的・場面・状況を設定する。

今年から新しくやってきた ALT の先生が、私たちの町をもっと知りたいと思っている。休日に楽しめるおすすめの方法や自分が好きな場所とその理由を教えてください！

★言語活動のポイント

生徒の活動（流れ）	指導の留意点や効果
① 言語活動の内容を理解する。	Small Talk の流れから導入する。
② 伝えたい内容を個人で考える。	補助プリント等を活用し支援する。
③ ペアになって一人が ALT の役になってやり取りの練習を行う。	相手を意識して練習するように指導する。
④ ALT と会話する。	参考となるやり取りを全体で共有する。

*④の後に中間指導として、文法や発音の正確さについても指導し、再度③と④を行うことで、発話の正確性を高めることができる。

授業の後半 Small Talk② 学んだ表現を活用して再チャレンジ！

◎学んだ表現を実際の会話の中で使うことができることに気づき、定着を図るとともに、主体的に運用する力を養う。また、生徒が自信を持って発話することができるようになる。

Before



I like gym.
I like basketball.

After



I like gym because I'm on the basketball team.



【学習課題の設定】事前に、本時の目標を達成した生徒の姿を想定し、そこに導く学習課題を設定する。

【活動場面の工夫】コミュニケーションを行う目的・場面・状況や、相手を意識させ、必然性のある言語活動を行う。

○ 指導上のポイントにおける ICT 端末の活用について

- ICT を活用することで、話す際に必要となる表現や情報などを得ることができる。
- 動画や画像を用いて、視覚的・聴覚的な情報を伝えることができる。「話すこと【発表】」
- 動画を録画して振り返りや自己評価ができる。動画から文字起こしをして、発話の正確さについて確認することもできる。「書くこと」

